

新たな日藝生を 導いて、繋ぐ

日藝の魅力を常に探して

小林：入試係は、主に入学試験の運用と募集に関する周知をしています。まずはオープンキャンパス、外部進学相談会など高校生や受験を考えている人に向けての広報活動。いざ入試になりますと、出願から入学試験の実施、そして入学者の情報が正確に学籍情報として登録されるところまでを担当しています。

吉沢：コロナ禍においては、オープンキャンパスに来られなかった人たちへ向けた模擬授業や資料説明会を、学部HP掲載のYouTubeチャンネルで発信もしています。最近では入試係としてのTwitterアカウントをつくって高校生向けの情報発信も行っています。

小林：入試にかかわっているのが、公平であることと、ミスなく行うということは非常に大切にしています。入試広報に関しては、日藝にはどんな魅力があるのか日々探して、学科特設サイトをチェックするなど情報収集を心がけていますね。ホームページを一番見ているのは自分たちじゃないかなという思いで仕事をしています。

吉沢：それに、高校生に発信するとき、嘘はつかないということは大切にしています。ちょっと良く見せようと色をつけると、裏切ることになってしまうので。

オンラインでの英語の授業

松浦先生：オンライン授業の大変なところは、いろいろと制限があることです。対面授業では、みんなの机を回って、課題の疑問点を聞いたり雑談をしたり、いろんな話をしていました。ですが、オンライン授業だと課題提出が中心になって、一人ひとりの顔が見えません。映画を使った授業などもできなくなってしまいました。ただ、オンラインだと、自分できちんと課題に取り組んだり、じっくり英語と向き合いやすくなったのかなとも思います。いい面はあると思うので、そういった面を伸ばす機会にしてもらえたらなと思っています。

S2：私は、コロナ禍以前よりも課題に取り組む時間が取れるようになりました。他の授業と違って、私が取っている「応用英語II」の授業ではたくさん個人的なアドバイスももらえるので、先生と話してアドバイスをもらって、授業が終わったらすぐに取り掛かれるというのはオンライン授業のいいところだと思います。

S3：オンライン授業になって変わったのは、大学生の余白の時間が失われたということです。授業が始まる前に友達と「課題やった？」みたいな話をしたり、先生に授業終わりに質問をしたり、そういう余白の時間がなくなりました。でも、この授業は雑談の時間があるので、自分からも発信できるし、発信したのに対してすぐにレスポンスがもらえるという心強さがあります。そこがこの授業の好きなところのひとつです。

学生が輝いてる姿が 1番の広報になる

小林：普段は、教務課といっても僕たちは少人数で別室に居るんです。なので仲良くいることが大事ですね。（笑）

吉沢：趣味も合うので、漫画の話をしたり展示会に行った報告をしたりしてます。

小林：直接学生と関わる機会は業務上少ないですが、私個人で言うと、オーディオ無線研究会の相談役をやっているの、そこではいろいろ話を聞くことがあります。本当は入試係としても、在校生から声を聞いて、それを踏まえて高校生に

対してアプローチしていきたいんですよね。

吉沢：そういう場があるといいですね。たとえば月曜日の12時に図書館に僕たちがいて、その時に声をかけてもらう、とか。

小林：漫画の話とかも聞きたいよね。

吉沢：学生の皆さんにいかに協力してもらえるのか。みなさんが輝いてる姿が一番の広報になるので、そういった機会も探っています。

日藝生にメッセージ

小林：やっぱり私たちの立場からすると、みなさんが一生懸命頑張って入試に向けて取り組んできた姿を見てきているつもりなので、そのときのことをフツと思い出してもらって、学生生活を充実させてほしいなと思います。

吉沢：大学の広報というのは在学生の活躍というか、楽しく学んでいることがすごく大事です。その結果としてさまざまな業界で活躍する卒業生がたくさん居ていただければ、それ自体が日藝の財産になります。頑張った結果として日藝に入学できたのですから存分に学生生活を楽しんで自分の夢を叶えてほしいです。

日藝生へ

松浦先生：日藝生には日々いろんな刺激を受けています。芸術教養課程の授業なので、様々な学科の学生が集まっていて、私も招待をもらって、洋舞や日舞、ピアノの公演にも行ったりしました。すごかったです。本当に刺激になりました。

他学科の知り合いや友達、仲間を作るのは大事なかなと思います。確かに、自分たちの専攻などで忙しかったり充実していたりして、他学科生と親しくなるというのは実際なかなか難しいことなのかもしれません。その中で、すこしでも他学科生がどうしているのか、聞いたり知ったりという機会があるとすごく豊かになるんじゃないかなと思います。いろんなところに触れてみると、日藝生活が楽しくなると思うので、ぜひやってみてほしいです。

日常の中に普通のアートを

日芸祭2021にて日藝100周年を記念して開催された百藝コンテスト。そこで芸術学部長賞を受賞された唐神一樹さんに、彼の創るアートについて聞いた。

「Mother plant」で 百藝コンテスト 芸術学部長賞を受賞

「Mother plant」はサンドバッグと音響管スピーカーとArduino、Raspberry-Piの2種類のシングルボードコンピュータで構成された、メディアアートの中のインスタレーション(空間作品)で、特に音を用いたサウンドインスタレーションに分類されます。もともとは別の作品を用意していたのですが構想の時点でコンテストのレギュレーションから外れてしまっ。それでこのMother plantを改めて構築しました。

「Mother plant」という言葉には『工場のモデルハウス』『植物の元株』という意味があります。作品を体験することで感性を刺激され、もっと多くのアーティストがこの作品を元株に成長して欲しい、というような意志が込められている作品です。加えて、アートの中で身体を鍛えるという大きなテーマもあります。

モチーフは焚き火

コロナ禍で趣味としてキャンプに行くようになり、チル(くつろぐ、冷静になるなど)できる焚き火がモチーフとして良いなと思いました。チルと身体を鍛えることは全く正反対のところにありますが、それらが空間の中で共存すると作品をあらゆる角度から見るができます。

サンドバッグを殴ると設置されたセンサーから信号が送られて焚き火の音から太鼓の音に変わります。その音はボクシングの1ラウンドと同じ3分間続き、その間、身体を鍛え、終わると焚き火の音でチルする。そういう「アートで身体を鍛える」作品の使い方を提示しています。また、鍛えすぎないために必要なブレーキの役目も持っていて、鍛えて、休んでという緩急を作り出すようになっています。

ボクシングの経験が作品に

以前ボクシングのプロジムに通っていました。ボクシング自体はフィットネスとして重要だし、アートをやる上で肉体的な動きが自分の創作意欲を維持するのにとても重要だと気づいてやっていたんです。

メディアアートはプログラミングなどアートとは全く別の感性を使う要素が入ってきます。異なる感性を使うことで精神的、肉体的に限界まで自分を持ち上げていく必要が出てくるんです。そのため、作品を作っていく中で、作品に影響されて人間的に持つべきモラルを失う可能性があるなと感じました。でもこの「Mother Plant」を作ったという経験や、この作品があることでまともな人間としての思考回路に戻る。この作品がボクシングをやっていたというアイデンティティを自分自身に思い出させてくれて、それが元株になり自分自身を拡張していくことで、元々はこういうものだったんだと思出すことができる。そういう機能を持たせたかったんです。

それから、作品を見るだけではなく体験して鍛えるというのを日常的にする必要があるんじゃないかと思ひます。自然の中にいると、四角い部屋の中にあるよりも遥かに多くの情報が入ってくる。例えば山に行くと自分が歩いているところの足音がしたり、虫がいたり、飛行機の音が聞こえたり。そういう自然に含まれる情報は常に変化していく。でも四角い部屋の、壁の中にいる限りそれを感じることはできないですね。壁の中にいる限り、ずっと生物としての感性を鈍らせていくような感じになってしまいます。

コロナ禍の影響で家にいることが増えたことで感性が鈍り続けている。

けれど、そういう環境にいたとしても、自然を部屋の中に作り出すことでいろんな情報が入り乱れる環境を作り

音楽学科情報音楽コース 4年 唐神一樹さん

出すことでいろんな情報が入り乱れる環境を作り出せると思ったんです。

新しく自分の感性を更新し、鍛えて維持しつづけられる。それは肉体的な意味だけでなく、感性的な意味もあると思っています。それができるものとして自然を部屋の中に作り出すことで僕らの生活は豊かになるってことを知って欲しい。

メディアアートというフォーマット

メディアアートは空間や、建造物を再構成するものだと思います。そこにはエネルギーがあるけど、ただそれだけでは足りなくて、人間の身体を再構成しなきゃいけないんです。

今、スマートフォンがあるじゃないですか。とても便利で、これによって体が拡張されている。ただ、道具に依存しすぎているせいで逆にスマホを使って何をするかということしか考えられなくなってしまっています。

もっと身体の動きは自由で、歌ったり色んな所に行ったり出来るけど、そういうことがスマートフォンによって制限されています。

そこで、マシーンやメディアによって別の種類の機械を装着することで身体を再構成し直す必要がある。そうすると人間の感性が拡張され、コミュニケーションの幅を広げることができます。

例えば、VRとかメタバース。あれもVRがあることと仮想空間があることによって、身体を拡張出来るようになるものです。

機械を装着することによって空間の再構成、肉体の再構成が出来て、自分のアイデンティティを好きに操れるようになります。

プログラミングをやっているとそういうアイデアを実現することが出来



るので、このメディアアートっていうフォーマットをもっと色んな人にやって欲しいなと思います。

今後の展望について

これからはハードウェアの時代になると思っています。今は一つの規定されたハードウェア、例えばスマートフォンの中でいかにソフトウェアを拡張していくかというソフトウェアの時代なんです。が、これからはハードウェアを拡張していかないとはいけません。

どうやるのかというと、ハードウェアを拡張して身体に取り付け、身体の拡張をする。

具体的にいうと、突発的にアートを展開できるようにしたいです。誰がどこで何をやるかが予測できない状態で、街ゆく人が誰しもアーティストに見える状態が一番生産的なコミュニティの在り方だと思ひて、誰もが何かしらのアクションを簡単に起こすことができる状態をアートで成し遂げたいです。今は休日に美術館に行くなど特別なときにしかアートに触れないけれども、もっと日常の中に普通にアートがあることが重要だと思っています。そうすることで日常を拡張できるんじゃないでしょうか。

(構成:吉野)

文芸サークル ALLGON

私たちは文芸サークル「ALLGON」です。月に1回程度、活動をしています。

メインの活動は合評会です。基本的には事前に提示したテーマを元に作品を書きます。

去年は日芸祭で初のサークル誌『万物博覧会』を販売しました。

「ALLGON」最大の特徴は、書く作品のジャンルが自由であること。純文学、エンタメ、詩、等々。初代代表は絵本を主なジャンルにしていました。また、文芸学科生だけでなく、映画学科の学生も所属しています。このように「ALLGON」はジャンルや学科に囚われない自由なサークルです。

ただ、自由とは好き勝手することではなく、“ある程度

の規律のなかで無限の発想を行うこと”だと考えています。自由でありつつも、合評会は真剣に全員の作品を批評しあっていく。その上で仲良くしていく、のがモットーです。

お堅い言葉でつつらと書かせていただきましたが、和気あいあいとした素敵なサークルなのでよろしくお願いします！

Twitter:
@ALLGONS



部活やるぞ！



徒歩旅行部は、徒歩で旅行をしたりしなかったりアウトドアもインドアも、やりたいことを企画して活動する自由な公認部会です。

2021年は活動を許可された秋以降に映画館を借りての映画上映会、徒歩での山手線1周、高尾山ハイキングを行い、少しずつ対面活動を再開させました。日芸祭では毎年恒例の飲食屋台ではなく、大学周辺の飲食店を紹介するグルメ雑誌を作成、お店ごとに使える割引クーポンを付けて販売し、見事100冊を完売、またオリジナルデザインのクッキーもオンライン販売しました。

週に一度の部会は授業後やオンラインで21時頃から開き、日芸祭の準備やレクリエーションなどを行いながら、交流の場を積極的に作っています。

コロナ渦以前は、宿泊を伴う春夏の合宿、新入生歓迎や送別のキャンプ、深夜の東京を巡るナイトピクニックを行っていました。その他にもやりたいことがあれば、自然と人が集まって活動をしていました。

現在部員数は46名で、全学科の学生が所属するため、他学科間の交流も楽しめます。

ご興味を持っていただけましたら、DMに質問など気軽に送ってください。

Twitter:
@tohoryo

徒歩旅行部



写真学科

- 写真学科教員作品展「SKY IV」
秋元貴美子教授、穴吹有希准教授、重松 駿助教が展示しました。
会場：ソニーイメージングギャラリー銀座
2021年12月3日(金)～12月16日(木)
- 鳥海早喜准教授が「新興写真の先駆者 金丸重嶺」出版
鳥海早喜准教授が国書刊行会より「新興写真の先駆者 金丸重嶺」を出版しました。
- 写真基礎演習Ⅲ統一テーマ展
今年度は「SDGs」をテーマとして制作を行いました。コロナ禍により大学内での写真展示が難しい為、Webでの開催となりました。
- 日芸祭写真展
今年度はコロナ禍により「日芸祭」は11月3日～5日に在学生限定で開催され、それに伴い写真学科有志によるオンライン展示も行われました。
オンライン展期間：2021年11月3日(水)～11月30日(火)
- 日本大学芸術学部写真学科2022卒業
昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021年度卒業生による卒業制作作品展がWeb上で開催されました。
- 江古田キャンパスプロジェクト
産官学連携プロジェクトとして西武鉄道株式会社、武蔵大学、武蔵野音楽大学と「江古田キャンパスプロジェクト」を行い、写真学科の学生が写真撮影で協力しました。
- GRIP2022開催予定
ポートレートギャラリーで下記日程により開催予定です。
2022年6月23日(木)～6月29日(水)
- 写真学科公式HP/Twitter
直近の情報は
公式HP (<https://www.nuaphoto.com/>)
Twitter (@nichigei_photo) で発信していますのでご覧下さい。

映画学科

- S.T.E.P.を開催しました
日本大学芸術学部が主催する大学連携による映画人育成のための上映会『S.T.E.P.』を開催しました。3月13日から18日まで新宿区の映画館K's cinemaにて、全国の大学から集められた学生作品を上映しました。
- 日芸アワー放送中
J:COMチャンネルにて、映画学科の卒業制作、卒業研究、映画演出Ⅲ・技術Ⅲ、映像表現・理論Ⅲで制作された学生作品を毎月、最終土・日曜日に放送中です。詳しい放送時間は、J:COMチャンネル番組ガイドをご確認下さい。
- 日芸創設100周年記念動画完成
日芸創設100周年を記念して製作された100周年記念動画が完成しました。映画学科卒業生の藤井道人が監督し、今村圭佑が撮影、池松壮亮が出演しています。学部の教職員、学生、卒業生が結集した動画は3月にお披露目され、HP等で公開されます。また、在校生や著名な卒業生の記念インタビューも合わせて公開されます。ぜひご覧ください。
- 学生の受賞について
映画学科の実習作品が各賞を受賞しました。
□『全身犯罪者』(2020年度 卒業研究)
●カナザワ映画祭2021 期待の新人監督 観客賞
□『参む』(2020年度 映像表現・理論Ⅲ)
●London Indie Short Festival of 24 Frames March 2021 : Best experimental
●Hong Kong Indie Film Festival April

- 2021 : Best student short
●The Buddha International Film Festival
2021 : Best Experimental Short Film Award
- 『Sleepless Night』(2020年度 卒業研究)
●東京1st映画祭2021 企業賞
●第27回 学生CGコンテスト SILVER (小林浩康審査員賞)
●ICAF2021 : 観客賞 第4位
- 『飛べなかった燕』(2020年度 卒業研究)
●南区U-40アートフェスティバル2020 優秀賞
●うみねこ映画祭 うみねこ賞
- 『答え合わせのないあなた』(2019年度 卒業制作)
●第14回 アジア国際青少年映画祭 優秀賞
●第7回 アジア大学生映画祭 銀賞

美術学科

- はなう美術振興財団 写実画家育成助成金
写実絵画を制作している学生を対象とした奨学生に、大学院1年生の宋 躍偉さんと学部2年生の松原怜之さんが選ばれました。
- 神山財団 第8期芸術支援プログラム
全国の美術大学大学院へ通う学生を対象とした奨学生に、大学院1年生の宋 躍偉さんが選ばれました。
- 青いうまち 33人展
1月16日(日)～4月16日(土)
田園の美術館(いすみ市郷土資料館) | 渡辺有葵非常勤講師が出品する展覧会が開催されます。
- FACE展2022
2月19日(土)～3月13日(日)
新宿・SOMPO美術館 | 当コンクール展にて大山智子元助手が優秀賞を受賞しました。
- GEE 2022 [金の卵展]
2月26日(土)～3月5日(土)
SAN-AI GALLERY
鈴木志歩臨時職員が出品します。
- 月刊美術 美術新人賞デビュー 2022
2月28日(月)～3月5日(土) 泰明画廊(銀座)、ギャラリー和田(銀座)の2会場
月刊美術主催のコンクール、美術新人賞デビュー 2022に学部3年生のKAYAさんが奨励賞を受賞、金子貴富助手が入選しました。
- 第9回 Femmes展
2月28日(月)～3月10日(木) 銀座、高輪画廊
嶋村有里子非常勤講師、大山智子元助手が出品します。
- 第13回 稜の会
2月16日～22日に日本橋高島屋 美術画廊で開催されたグループ展「稜の会」に福島唯史教授が出品しました。下記の会期で、大阪、名古屋にて巡回展が開催されます。
3月2日(水)～3月8日(火)
高島屋大阪店 美術画廊
3月23日(水)～3月29日(火)
ジェイアール名古屋タカシマヤ 美術画廊
- environ展
3月19日(土)～4月9日(土) ギャラリー華
ギャラリー華プロデュースによる3人展に菅野正弘非常勤講師が出品します。
- 第11回・春を想う展
3月21日(月)～3月27日(日)
銀座ギャラリーあづま
開催のグループ展にて嶋村有里子非常勤講師、坪井麻衣子准教授が出品します。
- 第74回展新人選抜者・第15回春季二紀
3月25日(金)～3月31日(木) 東京都美術館
第74回展新人選抜者・第15回春季二紀展に吉岡正人非常勤講師、金子貴富助手が出品します。
- 氷川参道ギャラリー企画展(仮)
4月16日(土)～5月14日(土)

- 氷川参道ギャラリー
大山智子元助手、鈴木志歩臨時職員、金子貴富助手が参加するグループ展が開催されます。
- 渡辺有葵 展
4月1日(金)～4月15日(金) HIGURE17-15cas
渡辺有葵非常勤講師の個展が開催されます。
- Nerhol展
4月～ 新宿伊勢丹にて彫刻専攻飯田竜太准教授が参加するNerhol個展が開催されます。
- ACT 15周年記念小品展2022
4月26日(火)～5月8日(日)
The Artcomplex Center of Tokyoにて宮田義廣非常勤講師が参加するグループ展が開催されます。
- 越後妻有 大地の芸術祭2022
4月29日(金)～11月13日(日) 火・水休み (一部作品施設は通常営業) 十日町市・津南町
鞆掛純一+日本大学芸術学部彫刻コース有志による大地の芸術祭における作品発表およびワークショップ・上演等を開催。(大地の芸術祭実行委員会+十日町市)
- and+vol.3-
5月16日(月)～5月21日(土) ゆう画廊
鈴木志歩臨時職員が参加するグループ展が開催されます。
- 第59回 太陽展
5月25日(水)～6月7日(火) 銀座、日動画廊
福島唯史教授、櫻井孝美元客員教授、設楽俊元助手、宮田みな美さん('16絵画卒) 他が出品します。
- 第2回 奏彩 ―7つの視点―
6月8日(水)～6月14日(火)
横浜高島屋 美術画廊
櫻井孝美元客員教授、福島唯史教授が出品するグループ展が開催されます。
- 港 ココハマ 夏の市 2022
6月24日(金)～7月10日(日)
FEI ART MUSEUM YOKOHAMAMA
山崎優子臨時職員がグループ展に出品します。
- 十果会
7月中旬 日本橋高島屋
瀬島 匠教授が出品する展覧会が開催されます。
- 「八艘の船」展
7月20日(水)～7月26日(火)
銀座、創英ギャラリー | 金子貴富助手が出品するグループ展が開催されます。
- 坪井麻衣子 展
7月30日(土)～8月8日(月)
ギャラリーあらき(新潟市)
坪井麻衣子准教授の個展が開催されます。
- 鈴木志歩 個展
8月20日(土)～8月28日(日) 医学町画廊
鈴木志歩臨時職員の個展が開催されます。
- 嶋村有里子 個展
9月19日(月)～10月2日(日) 始弘画廊
嶋村有里子非常勤講師の個展が開催されます。
- 山崎優子 展
9月26日(月)～10月2日(日) 銀座、Oギャラリー
山崎優子臨時職員の個展が開催されます。
- 音楽学科
- 第31回 日本クラシック音楽コンクールで音楽学科・久保田草太さんと上野富紀翁さんが入賞の快挙！

久保田草太さん

上野富紀翁さん

- ピアノ部門大学男子の部 2位(1位該当なしの最高位) : 久保田草太さん(音楽学科作曲・理論コース3年生)
- 声楽部門大学男子の部 3位(1位2位該当なしの最高位) : 上野富紀翁さん(音楽学科声楽コース3年生)
日本クラシック音楽コンクールは、1991年から日本クラシック音楽協会が主催するソロから室内楽を含むクラシック音楽全19部門からなるコンクールです。
予選は全国47都道府県で行われ、2016年には参加者が延べ13,000人を超えるなど、全国規模のコンクールとして知られています。
予選、本選、全国大会で構成され、特に全国大会では上下カットした合計点数の平均が満点でない1位にならないため、1位がなかなかでないコンクールとしても有名です。
すべての部門の3位以上入賞者は入賞者披露コンサートへの出演が約束されており、久保田さんと上野さんも出演の予定です。
またピアノ、ヴァイオリン部門の2位以上の入賞者、もしくは他部門の1位受賞者は副賞として翌年の入賞者ガラコンサートにてオーケストラと共演する機会を与えられ、久保田さんはこちらにも出演する予定です。
- 7月13日(水)に第137回 定期演奏会が練馬文化センター大ホール(こぶしホール)にて開催されます。
開場・開演時間未定
※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、中止または延期させていただく可能性があります。その場合は、音楽学科ホームページ・音楽学科公式Twitterにて発表いたします。

文芸学科

- 「第20回 江古田文学賞」発表
第20回 江古田文学賞は74編の応募作より厳正な審査を行った結果、正賞「執筆用資料・メモ」山本貫太、「沈黙と広がり」湯沢拓海の2編となりました。詳細は『江古田文学』108号に掲載されています。
- 「第1回 江古田文学賞高校生部門」発表
第1回 江古田文学賞高校生部門は全19編の応募作より厳正な審査を行なった結果、正賞「胎児」築栖鈴信、佳作「休みの日」澁谷冴介となりました。詳細は『江古田文学』108号に掲載されています。
- 第20回 江古田文学賞・第1回 江古田文学賞高校生部門授賞式開催
1月20日に第20回 江古田文学賞、第1回 江古田文学賞高校生部門の授賞式が西棟5階文芸ラウンジにて行われました。
- 「江古田文学」編集長に上田 薫先生が就任
令和2年度、105号より編集長を務められていた谷村順一先生に代わりまして、令和4年度、『江古田文学』110号から上田 薫先生が編集長に就任されました。
- 令和3年度卒博、オンライン卒博開催
3月13日から3月20日まで、令和3年度卒博、並びにオンライン卒博が開催されました。
- 「第9回 ハヤカワSFコンテスト大賞」、「第28回 電撃小説大賞 メディアワークス文庫賞」受賞
宮田 彬さん(文芸学科4年生)が『スターシェイカー』で「第9回 ハヤカワSFコンテスト大賞」、『きみは雪を見ることができない』で「第28回 電撃小説大賞 メディアワークス文庫賞」を受賞しました。
- 「第34回 ファンタジア大賞 銀賞」受賞
山賀塩太郎さん(文芸学科4年生)が、小説『完璧な佐古さんは自ら落ちぶれていくようです』で「第34回 ファンタジア大賞」銀賞を受賞しました。



048

After Century

Art Campus

Photography
Cinema
Fine Arts
Music
Literary Arts
Theatre
Broadcasting
Design

